

# 常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【3月4月度の御金言】日本国に此れをしれる者、但日蓮一人なり。これを一言も申し出だすならば、父母・兄弟・師匠に国主の王難必ず来たるべし。いわずば慈悲なきににたり云々。

【開目抄】(全集200頁)

## 法華講信条

- 1, 謗法嚴戒の信仰を貫こう。(信心)
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。(行学)
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇気を持とう。(破邪顕正)
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。
- 1, 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1, 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

1991年2月13日掲揚

☆ 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。

口で南無妙法蓮華經の御題目を唱える時は、心も一緒に南無妙法蓮華經と唱える事が、本当の唱題ですと皆さん方に再々御話しています。当然ですが御經を唱える時も、読み乍ら同時進行で、御經の意味が分かる人は誰もいませんが、口で「妙法蓮華經如来壽量品第十六」と唱える時は、心も「妙法蓮華經如来壽量品第十六」と一緒に、他の事に心を散乱させないで口も心も一緒に唱える事が本当に御經を唱えるという事になります。当然、迷いの心が浮かび、勤行唱題の時に、違う事を考え、口と心がバラバラになる事がありますが、これでは駄目だと、自分で自分を戒め、又改めて口も心も一緒に、御經、御題目を唱え、口と心が一緒になる様に頑張る努力して下さい。そうすれば雑念は正念によって消えて無くなります。雑念が起きているのは、心で唱える御題目の正念が無くなっているからであります。念ずるとは自分の願ひ事を念ずるのでなく、南無妙法蓮華經を念ずる事が正念なのであります。

何故、御經、御題目を唱えるのでしょうか？仏が説いた法華經を、そのまま私達が、本尊、仏の中味の南無妙法蓮華經に向かって唱える。先生から教えて貰った事を先生に読んで聞かせる。先生が生徒に「泥棒や嘘つきはいけないぞ」生徒が先生に「泥棒や嘘つきはいけないぞ」とオウム返しに言うという奇妙変な構図で「釈迦に説法」状況になります。何故、これを信心修行の基本とするのかと言えば、自分自身の口から修行として出た勤行唱題の声は、自分の耳に入って来た時には、仏の言葉となります。つまり、勤行は法華經説法の場に参集している状態なのであります。朝晩毎日、煩惱に翻弄される自分に、法華經の中心である、南無妙法蓮華經の御題目、法華經迹門の中心、方便品第二、本門の中心、全ての法華經の中心、壽量品第十六を唱える事によって、何度でも何度でも、自分の生命、

全ての生命に、平等に仏の生命（仏性）が具わる事を言い聞かせる（折伏）のであります。

日蓮大聖人は、南無妙法蓮華經と常不輕菩薩の 24 文字は同じだと説かれています。つまり、自分他人の隔たり無く、

【私はあなた方を深く尊敬し、貴方を軽んじたり、慢心をもって見下げたりしません。何故ならば、あなた方全ての生命に、元々南無妙法蓮華經の仏の生命が具わっているからです。あなた方が、その事に目覚めて南無妙法蓮華經の信心修行をし南無妙法蓮華經の法に叶う生き方をすれば、誰もが皆平等に必ず南無妙法蓮華經の仏に成る事が出来るからであります。】

つまり、私達信仰者が何を目的に御經、南無妙法蓮華經の御題目を唱えるかと言えば、自分の願ひ事の為ではなく、自分の生命、他人、森羅万象一切衆生の生命に具わる南無妙法蓮華經という仏の生命に、かすかでもこの事に気付き目覚め、その事を三毒によって迷い見失う事がないよう、その自覚を深く強くする自他にわたる折伏の為に何度も何度も言い聞かせる様に唱えるのであります。私達は、この世の中に、自分達の生命の根本に南無妙法蓮華經の仏の生命が具わっていることを唯一示している、南無妙法蓮華經の法に出会う為に生まれ、妙法の縁に琴線が触れ、信じてみようかな、自分の心身を掛けてみようかな、任せてみようかなと思ひ、信心の志が芽生えます。それ故、美味しい食べ物のように、一人でこっそり隠れて自分だけ食べれば良い、他人に分けたくないではなく、美味しい物は、家族や他人にも分け、教え、伝え、皆で食べれば、もっと喜びを共有し、共感し、楽しく、美味しくなるのであります。これと同様に、南無妙法蓮華經の法を自分の生命、他の生命に言い聞かせ（折伏弘通）自分だけ成仏出来れば良いではなく、縁する人々に伝え、一切衆生平等成仏の法を一切衆生に伝え（縁）ていかなければいけないのであります。つまり、私達は、自分にも他人にも、全ての生命にも、元々本然として南無妙法蓮華經の仏の生命が具わっているにもかかわらず、九界の三毒に強情に犯され、この事に気付けない、目覚めない、間違った法を信じ、迷っていながら迷っていないと思ひ込んでいる人々、まったく無関心な人、考える事も無く今が楽しければ良い、死んだらおしまいだと考える無信論者、宗教者も、人を脅したりすかしたりしているどうせ金儲けの商売だろうと、眞実の法を求めない、考えない、何も信じられない人々が世の中のほとんどなのであります。その世の中にあつて、私達、日蓮大聖人の法、南無妙法蓮華經の信仰者は、宿縁深厚にして一切衆生平等成仏を願ひ、その事を求める為に生まれて来て、南無妙法蓮華經を唱えているのであります。